

# 「朋友」からみる中国社会の関係様式

## A study of “Pengyou” — a social linguistic approach to human relations in China —

文学研究科社会学専攻博士後期課程在学

栗 俊 明

Toshiaki Kuri

はじめに

### I. 「朋友」分析

1. 分析対象、方法
2. 精神的な繋がりをもつ交際相手
3. 同世代間の交際相手
4. 仕事、血縁以外の日常生活の交際相手
5. 社会的地位・立場を同じくする関係
6. まとめ

### II. 「朋友」の周辺語分析

1. 「自己人」
2. 「哥们儿」
3. 「同……」
4. 「朋友」の省略形

### III. 人間関係詞からみる「朋友」の関係様式

1. 前章の結果を踏まえて
2. 「朋友」の関係でなくなるとき
3. 「朋友原有通财之义（誼）」
4. 人間関係詞からみる関係様式

おわりに

## はじめに<sup>1</sup>

中国語の「朋友」は《现代汉语词典》には「1. 彼此有交情的人。2. 指恋爱的对象。」とある。つまり、精神的なつながりを持つ交際相手を指していることになる。中国社会言語学者、孫維張（1991）は社会の中における人と人との関係は大きく二つの型に分類できるとしている。それは「亲缘关系（血

---

1 分析の引用文は、文末注にすると煩瑣になるため、以下のように整理した。

例：引用文（《書名》、[章回]、ページ）

縁関係)」と「社交关系（社交関係）」に分類される。そのうちの「社交关系」はさらに三つに分かれ、気持ちの上でのつながりを基礎とするもので性格や嗜好、趣味などの特殊な機会によって作られる関係を「朋友关系（朋友関係）」と定義しており、『現代汉语词典』の定義と一致している。

このような使用の例として、老舍の『駱駝祥子』中の、売り買いの場面における掛け合いが挙げられる。ここでは交渉相手という関係よりも、いわば精神的つながりの意味を強調し、使用されている。

- 舗主知道是遇见了一个心眼的人，看看钱，看看祥子，叹了口气：“交个朋友，车算你的了；保六个月：除非你把大箱碰碎，我都白给修理；保单，拿着！”（《駱駝祥子》（以下：《駱》）一，9頁）

物語の主人公の車引き、祥子（シアンツ）が貯めたお金で自分の車（人力車）を買う際、売り手から言われた言葉である。この二人の具体的な関係は売り手＝買い手である。しかしここで、売り手（舗主）は「朋友」と称している。祥子の心根の真っ直ぐさをみた主人が、駆け引きなしの心の付き合いを重視しようとの意味で用いているものと思われる。

また『儒林外史』に、出世のために科挙の勉強をしているわけではないが、詩を作ったり、琴を引いたり、文章を書くことが好きな、荊元という人物が登場する。

- 一日，荊元吃过了饭，思量没事，一径踱到清凉山来。这清凉山，是城西极幽静的所在。他有一个老朋友姓于，住在山背后。（《儒林外史》（以下：《儒》）五十五回，672頁）

ここでの「老朋友」という紹介は、精神的なつながりの関係を表している。これは、後に述べる「学校中的朋友（五十五回，672頁）」という表現と対比して用いられている。

しかし、辞書や孫維張が規定するような精神的なつながりという範疇には属さない人間関係にたいしても、「朋友」という語が使用されることも、実際には多い。

例えば、中国語に「在家靠父母，出门靠朋友」という諺があるが、以下のように使用されている。

- 母亲一再嘱咐儿子说：“你是在我身边长大的，如今要远走了，可真有点不放心。你要记住，在家靠父母，出门靠朋友，有事要多跟大家商量，不要蛮干。”（《常用俗语手册》496頁）

ここで「朋友」が指しているものは、血縁のものに対して、これから付き合いであろう人間を含めての世間内での関係にある人々という意味で用いられている。

『駱駝祥子』の祥子は北京（北平）に來た田舎者で、朴訥で真面目な人物である。この街の多くの事がよく分からない、茶館での議論を聞いていると、皆がもっともな事を言っているように思う、と祥子の心理を叙述する。

- 城里有许许多多的事他不明白，听朋友们在茶馆里议论更使他发糊涂，因为一人一个说法，而且都说得不到家。（《駱》八，68頁）

ここでの「朋友」は特定の誰かは指さず、祥子と同業者の関係にある人々という意味で用いられている。

王攸（1989）は諺の持つ意義の一つに、社会における身の処し方についての知識・教訓を教えるこ

とがあると述べ、次のように言う、「指導待人処事の准则は朋友要多，敌人要少，（人との接し方や物事の処理についての基準は「朋友」を多く、敵を少なくしようとするにある。）<sup>2]</sup>

ここに挙げた2例は、この意味における「朋友」であり、少なくとも物事を教えてもらったり相談ができる交際相手を指している。

また、その他にも『儒林外史』中のみの特殊な規定による使用例も存在している。

『儒林外史』の中には、科挙の生員（つまり郷試の受験資格を得て学校で学ぶもの）としての地位を表すものとして定義し、使用されているものがある。

- 原来明朝士大夫称儒学生员叫做“朋友”，称童生是“小友”。比如童生进了学，不怕十几岁也称为“老友”。若是不进学，就到八十岁也还称“小友”。（《儒》第二回，22页。）

このように定義し、それ以降で生員として使用しているとみなせる例は多数存在している。これは精神的つながりを示しているものではなく、科挙生員の仲間を指しており、非常に限定的な規定で使用されている。

以上の使用例から、「朋友」は多岐にわたる人間関係を表しているという事がみえてくる。

そこで中国社会の人間関係について、「朋友」という言葉を切り口にして、中国社会における人間関係を考察することにする。これら社会における人間関係を表す言葉を「人間関係詞」とここでは定義することにした。「人間関係詞」という用語は、言語を通して中国社会の人間関係を考察分析するという目的に基づき、言語学と社会学の関連する用語、概念を比較検討し、新造したものである。以下に、比較検討した概念をいくつか取り上げ、定義づけを固めることにする。

日本語においては鈴木孝夫（1973）が「人を表すことば<sup>3]</sup>」について日本語独特の用法やそこにある原理を主に親族名称の例を用いて解説している。しかしこの自称詞、対称詞（及び他称詞）というのは言語の機能に主眼を置いており、この論文で扱うような社会学でいうところの「社会関係（人間関係）」に主眼を置いたものではない。「自称、対称、他称」というのは著者自身が注で書いているように国文法においては古くから用いられているものである。これでは従来の概念とは違うという色彩があまり前に出てこないように思える。

中国社会学者、翟学偉（2001）は、「人际关系（模式）<sup>4]</sup>」という表現を用い、最終的には、社会的な面から「中国人际关系模式」というモデルを作り上げている。この「人际关系」という言葉は人と人との心の距離を表している。この言葉を用いて欧米と異なる様々な中国の社会・伝統を説明している。

これらの概念を比較検討する中で、上に取り上げた「人际关系」という用語を利用し、そういった人と人とのコミュニケーションの中で相互の関係を表すものを「人間関係詞」と呼ぶことにした。

---

2 王仿：《中国谜语、谚语、歇后语》，浙江教育出版社，1989，159 页。

3 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波書店、1973 年、第 6 章。

4 翟学偉：《中国人行动的逻辑》，社会科学文献出版社，2001，236 页。

次章でその一つである「朋友」とその周辺語について分析を試みる。分析に際しては「状況のコンテキスト<sup>5)</sup>」の概念を利用して分析し、使用されている状況、ことばの中に存在するものを考察してゆくこととする。

## I. 「朋友」分析

### 1 分析対象、方法

「朋友」はどのような人間関係を設定しているのだろうか。

状況のコンテキストの観点を用い、テキストから鍵となる言葉が用いられている部分を抜き出し考察した。用いたテキストは以下の通りである。

#### ・ 吳敬梓《儒林外史》（580,000字）

1770年代刊。章回小説で主人公が数珠繋ぎに入れ替わり、個性豊かな人物が登場する。科挙試験を受ける前段階の生員、秀才、取り巻く人間たちの滑稽さを巧みに描き出し、立身出世や科挙試験に躍起になる人々を嘲笑的に描き、社会を批判した小説である。

この作品の中の人物関係を見てみると、広範囲に及んでいる。作品の性質もあり、科挙の学校関係の秀才、家に入出入りする者、滞在している食客、交渉相手など身分は様々である。

#### ・ 文康《儿女英雄伝》（583,000字）

清末の章回小説でこの作品に登場する「十三妹」という女傑は有名である。『紅樓夢』を意識して書かれ『紅樓夢』が大家庭が没落して行くさまを描いたのに対して、『儿女英雄伝』は家庭の興隆してゆくさまを描いた作品である。

内容は北京語で書かれ「普通话」を学ぶのに格好の教材とされた。言い回しが興に入っているときは少々煩わしく感じられる。文学としての評価は厳しいものが多い。

#### ・ 老舍《骆驼祥子》（157,000字）

1936年雑誌《宇宙風》にて発表。物語の舞台は1920年代。《骆驼祥子》は身体だけが資本の車引きである祥子が世間の荒波に飲まれ沈みゆく様を描いた物語である。舞台が北京、また作者である老舍も漢人八旗の一族出身であるので、北京語の言い回しで物語は綴られている。この作品には主人公・

---

5 C.オグデン、I.リチャーズ（石橋幸太郎訳）『意味の意味』新泉社、1967年、内の補遺1プロニスロフ・マリフスキー『原始言語における意味の問題』、及び、M.AK.ハリデー、R.ハッサン（寛寿雄訳）『機能文法のすすめ』大修館書店、1991、第1章参照。

祥子を通して様々な人間関係が「朋友」を用いて描かれており、その概念を窺い知る事ができる。

・王朔《空中小姐》《浮出海面》（85,031字）

70年代以降の資料として王朔の小説を用いる事にした。理由は舞台が北京であり、「普通话」を研究する上では良い材料であるから、またある程度、知名の作家であるようだから、多くの人間に読まれているということはそれだけ多くの人の言語に影響を与え、その概念を代表しているという事であるので、王朔の作品を挙げた。

王朔について簡単な説明を加えておく。

王朔：1958年生まれ。1978年より創作活動を始め、84年初めより処女作《空中小姐》を《当代》に発表してより1997時点で中篇小説22編、長編3篇、約160万字を発表し、また数十のテレビドラマを制作している。

《空中小姐》は主人公「我」と王眉の恋愛の物語。53頁、29,655字の中篇小説である。

《浮出海面》は作家・石岬と舞踏団の団員、于晶の恋愛小説。95頁、55,376字の中篇小説である。王朔の専業作家としての第一作である。

## 2 精神的な繋がりをもつ交際相手

「はじめに」内で定義したように、精神的な繋がりをもつ交際相手という設定での使用がみられる。では、実際にはどのような状況で使用されているのだろうか。

### (1) 精神的な繋がりをもつ関係

「朋友」が「俗语」のように用いられているものがある。この用法の「朋友」は人の交際の理想を示す場合が多く、ほぼ精神的繋がり指している。

- 四公子道：“相见之时，原不要提起。朋友闻声相思、命驾相访，也是常事。难道因有了这些缘故，倒反隔绝了，相与不得的？”（《儒》第九回，122頁。）

第九回で婁玉亭（三公子）、婁瑟亭（四公子）が楊執中を助け、釈放させた後、楊執中に会いに行くかどうかを相談している。お互いの名声を聞きお互いに慕い合い、会いに行くという意味で、このように述べられているものがある。

ここでの「朋友」は明らかに精神的な繋がり関係で用いている。

- 差人道：“先生，像你这样血心为朋友，难道我们当差的心，不是肉做的？自古山水尚有相逢之日，岂可人不留个相与！只是这行瘟的奴才头高，不知可说的下去？”（《儒》第十四回，182頁。）

捕方（差人）が馬二先生に友人の罪のもみ消しを求める場面である。ここでの「血心为朋友」は人間の心を持った生身の人間という意味であり、意気のある人間だ、という事が含まれ、相手を持ち上げる意味で用いている。後の「不是肉做的？」と呼応させ、自分も血の通った人間なのだから鬼じゃな

い、という譲歩を引き出している。

- 又道：“像这样的，才具斯文骨肉朋友。有意气、有肝胆、相与了这样正人君子，也不了！像我娄家表叔，结交了多少人，一个个出乖露丑，若听见这样话，岂不羞死！”（《儒》第十四回，184页。）

馬二先生が自分の罪をもみ消してくれたことに対して、籛公孫がお礼を言う、相手への感謝と敬意を表す台詞である。「骨肉を分け合った友達」、要するに親友の中の親友だと言う事を表している。骨肉を分け合うとは兄弟のことを指しており、強い感謝を示している。

- 牛浦道：“万雪斋先生算同叔公是极好的了，但只是笔墨相与，他家银钱大事还不肯相托。李二公说，他生平方一个心腹的朋友，叔公如今只要说，同这个人相好，他就诸事放心，一切都托叔公。不但叔公发财，连我做侄孙的将来都有日子过。”牛玉圃道：“他心腹朋友是那一个？”牛浦道：“是徽州程明卿先生。”牛玉圃笑道：“这是我二十年拜盟的朋友，我怎么不认的？我知道了。”（《儒》第二十三回，288页。）

牛浦と牛玉圃の会話で、牛浦が牛玉圃を騙す場面。ここでは「心腹的」をつけ特別な交友関係にあることを示している。親友などの人間関係を表す時は「朋友」の前に何かつける必要があるのではないかと考えられる。後ろにも「二十年拜盟的朋友」という形で、特別な親交のあることを示している。

ほかにも、士大夫階級ではない役者である錢に対しても「朋友」を用いている。

- 这高老先生虽是一个前辈，却全不做身分，最好顽耍，同众位说说笑笑，并无顾忌。才进书房，就问道：“钱朋友怎么不见？”薛乡绅道：“他今日回了，不得来。”高老先生道：“没趣！没趣！今日满座欠雅矣！”（《儒》第三十四回，421页。）

高老先生はこの役者がひどく気に入っている事が前段に書かれている。このことから、後段で述べる科挙の秀才同士の関係を表すものではなく、趣味の分かる精神的なつながりを指している。

『駱駝祥子』の中にも深い人間関係を表すものがある。ここでも外側の「朋友」と区別するためにしばしば様々な修飾を前に伴う。

- “你要是还没吃了的话，一块儿吧！”虎妞仿佛是招待个好朋友。（《駱》四，35頁）

北平に戻ってきて劉家父娘と再会する場面。暖かく迎える事をこのように表現している。

- 嘱咐完了祥子，他走进去。祥子刚把车拉进门洞来，放好，曹先生又出来了，同着左先生；祥子认识，并且知道左先生是宅上的好朋友。（《駱》十一，94頁）

曹先生を匿ってくれる左先生のことをこう指している。ここは頼れる相手として登場している。

- 平日，自己本来就没有知己的朋友，所以才有苦无处去诉，怎能再得罪人呢？他有点后悔。（《駱》十四，122頁）

劉四爺の誕生日で車引き仲間から日頃の不満をぶつけられ諍いになる場面。仲間から孤立し、孤独を感じ、苦衷を話せる「朋友」がいたらなあ、という事を嘆いている。「知己的」が付いている事で深い仲の友達、親友に近いという事が言える。前の修飾語もしくは文脈で「朋友」の意味は特定される

事が分かる。

- 妇女们不容易交朋友，可是要交往就很快；没有几天，她俩已成了密友。虎妞爱吃零食，每逢弄点瓜子儿之类的东西，总把小福子喊过来，一边说笑，一边吃着。（《骆驼》十七，156页）

長屋（大杂院）で虎妞の描写。女性同士は容易に友情を育まないという文章で「交朋友」を用いている。引っ掛かったのは「密友」という表現だ。《现代汉语词典》（第五版）には「友谊特别深的朋友：至亲～」となっており「朋友」の中でも特に親しいもののことを指している。「密友」というものが出てくるが、おそらく「亲密的朋友」に近いだろう。「亲友」と使い方が似通っている。「亲友」の表現は 次章の周辺語の部分で取り上げる。

- 这个，招翻了虎妞。祥子不在家，小福子是好朋友；祥子在家，小福子是，按照虎妞的想法，“来吊棒！好不要脸！”她力逼着小福子还上欠着她的钱，“从此以后，不准再进来！”（《骆驼》十九，169页）

祥子を看病する場面である。祥子が元気に車を引いている時は「好朋友」だったが、祥子が体調を悪くして家で寝込んでいるときは、憎き嫉妬の対象になっている。

このようにごく親しい関係にある「朋友」は修飾を付けて用いる事が多い。

ここから考察する限り、「朋友」は漠然と友人一般、またはそこまで深い交友関係を持っていない同僚などの場合は何もつけず用い、限定した深い関係の人間を表したい場合、「好……」や「老……」、または「知己的……」などをつけて特定する事が多いといえる。

また、王朔の《空中小姐》にもこの用法がみられる。

- “（略）……知道这些，你还能爱她吗？”  
“当然爱！仍然爱！”

“好朋友！你知道吗？她准备给你写信的。（略）！”（《空中小姐》（以下《空》）十九，85页）

分析時、引っ掛かったのはこの呼びかけである。この「好朋友」はその場面で初めて会った人間で、しかも以前の彼氏、今の彼氏だったという関係である。おそらく、ここの「好朋友」は親しい関係の友人という意味を表すものではなく、母親が子供に「好孩子」といって注意を喚起する、呼びかけの用法と同じようなものなのではないのだろうかと考えられる。この「好朋友」も「よく聞けよ。」というような用法であると解釈するならば、意味が通る。もしくは前の台詞を受けて「いい奴だな！」という感嘆詞のようにも解釈できる。いずれにしても「好朋友」それ自体の意味より会話の中での注意喚起という意味合いが強いといえる。

- 我的好朋友关义受到流氓的报复，被打伤住院了。（《空》十五，67页）  
• 可是关义，我的老朋友，我要说他身上始终保持着我们第一次驾船出海时所共有的那种最强烈、最纯洁的献身精神。（《空》十六，70页）

「老朋友」、「好朋友」はどういった範疇なのだろう。日本語の親友の範疇とは少々異なるようだ

が、近いものがある。またこの二例をみても、「老朋友」と呼んでいた関義を「好朋友」といつたりしているところから推察するに、両者は近い言葉であると考えられる。

## (2) 特定の人間との深い関係を示すもの

『儒林外史』の中で季葦蕭と杜慎卿がこのような事を言っている場面がある。

- 季葦蕭道：“人情无过男女。方才吾兄说非是所好。”杜慎卿笑道：“长兄，难道人情只有男女么？朋友之情更胜于男女。你不看别的，只说‘鄂君绣被’的故事。据小弟看来，千古只有一个汉哀帝要禅天下与董贤，这个独得情之正，便尧、舜揖让，也不过如此。可惜无人能解！”（《儒》第三十回，370页。）

この場面の以前に「山水」、「丝竹」を好むかという問いに対していずれも好まないとしている。そして引用部分の掛け合いになる。

「朋友」の情は風景（絵画も含める）、音楽をも越え、男女の情にも勝るとしている。それを「鄂君绣被」の故事や漢の哀帝が董賢に禅譲をしようとした話をひいて証明しようとしている。男女の情を越えるとするとなぜか即同性愛という構図が日本の考え方にはあるように思えるが、そういうことを言っているのとは限らないように私は感じる。ここではたしかに同性愛の故事を引いているが、その点よりむしろ精神的繋がり of 強さを強調したものであると考える。なぜならこの後で季葦蕭がそんなに「知心情人」がほしいなら、「梨園（演劇界）」の人間から探せばいいじゃないか、という切り返しに対して、杜慎卿は論外だと否定し、外見の外で相感ずる所のある人間でなければならないと論じている。そのことから強い精神的な繋がりを求めていると考えられる。

この後、「知心情人」もしくは「知己」を求めて杜慎卿がいないことを嘆く談義が続く。

このように、同性愛的な対象を深い精神的繋がり of 際たるものと設定して「朋友」を使用する例がみられる。

## (3) 異性の交際相手を表すもの

今まで上げた作品の「朋友」には無いものとして最も特徴的なものは「男朋友、女朋友」がある。次に挙げるのは《空中小姐》の中で用いられていた「朋友」の表現である。

- 关义象对别的民警工作一样起劲地给我介绍女朋友。（《空》十六，70页）
- 可她和那个男朋友也在北京的乘务员光顾高兴了，飞机落广州时，两个神魂颠倒的姑娘忘了卸纸型，又给拉到香港兜了一圈。（《空》六，51页）

範疇ははっきりとしていて異性の交際関係にある特定の人間、つまり彼氏／彼女、を表す言葉である。

「男朋友」、「女朋友」は「彼氏」、「彼女」の意味なので範疇が具体的で分かり易い。

またここでは「交朋友」も今までと違う用法で用いているものがあつた。この「交朋友」は明らかに男女の付き合いという意味で用いている。

- “和你交朋友后，我就没别的朋友了。”我说。（《浮出海面》（以下《浮》）142頁）

おそらく彼氏／彼女の意味で用いられるようになってこのような意味も含むようになったのだろう。

つまり「男朋友、女朋友」という形をとらなくとも、異性との交際関係を表すことが可能であることを示している。

### 3 同世代間の交際相手

特定の相手を規定せず、深い関係などの限定のない表現が存在する。これらはどのような場合に用いられるのだろうか。

まず、社交辞令として「看朋友去」「寻个朋友」などで用いられる。叙述部分ではそのままの意味であるが、会話部分の場合は去るときの社交辞令の場合もある。

- 公孫不能相强，要留他办酒席饯行。马二先生道：“还要到别的朋友家告别。”说罢去了，公孫送了出来。（《儒》第十四回，185頁。）

蘧公孫と馬二先生の会話。公孫の事件を揉み消した事を告げ、辞去する際に用いている。

- 匡超人道：“牛先生也进京么？”牛布衣道：“小弟不去，要到江上边芜湖县地方，寻访几个朋友。因与冯先生相好，偶尔同船。只到扬州，弟就告别，另上南京船，走长江去了。先生仙乡贵姓？今往那里去？”（《儒》第二十回，256頁。）

偶然、同じ船に乗り合わせた匡超人と牛布衣が話をする場面。嘘ではないが極めて漠然とした答え方だろう。初対面の相手で会話をする事自体が目的で、このような言い方をしている。

- 凤四老爹大笑道：“我与先生既非旧交，向日又不曾受过你的恩惠，这不过是我一时偶然高兴。你若认真感激起我来，那倒是个鄙夫之见了。我今要往杭州去寻一个朋友，就在明日便行。”万中书再三挽留不住，只得凭着凤四老爹要走就走。

万中書を助け、お礼を言われ引き留められるが、辞去し去る場面。実際に尋ねる予定だが、確約はない。

- 秦二倚子道：“而今凤四哥来了，我们不盘马了，回到下处去吃一杯罢。”凤四老爹道：“我还要去寻一个朋友。”胡八乱子道：“贵友明日寻罢。今日难得相会，且到秦二哥寓处顽顽。”（《儒》第二十回，256頁。）

久々に再会した秦二と鳳四老爺との会話。引き留められ辞去するが、断れず誘いに応じる。このように誘いを断る時の用法がある。

他には純粹な意味での叙述の部分では以下のものがある。

- 三个人传杯换盏，吃到半酣，秦二倚子道：“凤四哥，你刚才说，要去寻朋友，是寻那一个？”凤四老爹道：“我有个朋友陈正公，是这里人，他该我几两银子，我要向他取讨。”（《儒》第五十二回，625頁。）

先ほどの秦二と鳳四老爺との会話の続きとなっている。

『駱駝祥子』内にも、一般的な意味の漠然とした概念のものがある。

- 在虎妞找他的第三天上，曹先生同着朋友去看夜场电影，祥子在小茶馆里等着，胸前揣着那象块冰似的小筒。（《駱》十，84頁）

この「朋友」は親友であるか、それとも単なる知り合い、または同僚であるのか、どちらにも取れるものである。これは物語上さほど重要でないので文脈上からも判断がつかない。後の段落でこの相手との関係が「好朋友」とであると分かる。漠然としたものとしてこのようなものがある。

《浮出海面》内では、そのような人間関係を設定していると考えられる箇所は以下のようなものがあった。

- 法院还差点以窝藏罪对我起诉，幸亏一个律师朋友从中斡旋，让我具结悔过，才不予追究。（《浮》91頁）
- 我买了张站台票，一个在车站值勤的警察朋友把我送上车。（《浮》109頁）

これらは『儒林外史』や『兒女英雄伝』『駱駝祥子』に見られなかった用い方である。「律師」、「警察」などの職業を頭に加えて使っている。その特殊な能力や職権を利用させてもらっている友達のようなニュアンスで使用している。つまり、想定されているのは同世代の友人ということになる。

ここでの「朋友」はむしろ、この関係にある人間ならば権益を利用しても差し支えない、という考えさえ見えてくる表現だ。その点で非常に特徴的な表現である。

#### 4 血縁以外の日常生活の交際相手

「朋友」を漠然とした概念として下のように使用している。

- 看见了人马路的忙乱，听见了复杂刺耳的声音，闻见了干臭的味道，踏上了细软污浊的灰土，祥子想爬下去吻一吻那个灰臭的地，可爱的地，生长洋钱的地！没有父母兄弟，没有本家亲戚，他的唯一的朋友是这座古城。（《駱》四，31頁）

祥子が命からがら北平に戻ってきた場面。「古城（北平）」を唯一の「朋友」とであると表現している。

「父母兄弟」、「本家亲戚」と「朋友」を並列関係においている。生きて帰ってきた安心感をこのように表現している。そう考えると、「朋友」は安心感を与える存在であると考えられる。このような概念的な「朋友」はある限定された人間関係や特定の誰かを指しているものではない。

ほかにも、『空中小姐』中に以下のような表現がある。

- 不要因为一个人的缘故，对所有同志、朋友都疏远了，不信任了。（《空》十八，81頁）

ここでの「朋友」も不特定の人間であり、関係も限定されていない。また、「同志」と「朋友」を並列に用いている。両者の違いはどこにあるのだろうか。これは次章で考察する。

#### 5 社会的地位・立場を同じくする関係

社会的地位・立場の限定された人間関係に対して「朋友」を用いて新たな定義づけを行い、使用する

る例がみられた。具体的にはどのようなものが存在しているのだろうか。

#### (1) 科挙の学校内における関係

科挙制度の秀才たちの事を「朋友」と呼び習わしたその用法がある。『儒林外史』には以下のような記述がある。

- 原来明朝士大夫称儒学生员叫做“朋友”，称童生是“小友”。比如童生进了学，不怕十几岁也称为“老友”。若是不进学，就到八十岁也还称“小友”。（《儒》第二回，22页。）

ここにある通り生員（秀才の事）を「朋友」と称している。この「朋友」は以下のように用いられた。

- 周进道：“这名字不是晚生起的。开蒙的时候，他父亲央及集上新进梅朋友替他起名。梅朋友说，自己的名字叫做‘玖’，也替他起个‘王’旁的名字发发兆，将来好同他一样的意思。”

ここで「梅朋友」と称されている梅玖は県試に合格した人間なので秀才ということになる。この用法は現代語で言えば「同学」と近い。この表現が『儒林外史』では多用される。

親族以外の人間と交際関係を持つ事を「交朋友」と表現している。

- 这王冕天性聪明，年纪不满二十岁，就把那天文、地理、经史上的大学问，无一不贯通。但他性情不同，既不求官爵、又不交纳朋友，终日闭户读书。（《儒》第一回，5页。）

隠遁して生活を送る王冕の描写部分からで、ここでは立身出世、功利を求めた人付き合いをしないという意味で用いている。そのことからここでの「朋友」は利害の絡む関係、この時代では科挙の秀才達を想定していることになる。

- 令先尊去后，大相公如此奉事我，我还有甚么话？你的品行、文章，是当今第一人。你生的个小儿子，尤其不同，将来好好教训他成个正经人物。但是你不会当家，不会相与朋友，这家业是断然保不住了。（《儒》第三十二回，403页。）

杜少卿の家の執事として先代から仕えている姜太爺の会話部分である。これも「交纳朋友」とほぼ同じ意味、同じ用法である。

『儒林外史』の用法をみるに、学校関係の人物であれば使用は問題なかったようだ。

- 话说杨执中向两公子说：“三先生、四先生如此好士，似小弟的车载斗量，何足为重！我有一个朋友，姓权名勿用，字潜斋，是萧山县人，住在山里。此人若招致而来，与二位先生一谈，才见出他管、乐的经纶，程、朱的学问。此乃是当时第一等人。”（《儒》第十二回，154页。）

ここでの話し手である楊執中が二人に権勿用を紹介する場面である。この人物は隠遁者で下段で滑稽な場面を演じる。科挙を受けるにはまず学校に入る事が必須資格となっているのだが、この人物は三十年勉強してその学校の学生、生員になれていない。序盤から中盤になるにつれて徐々に科挙くずれ、もしくは関係のない人々が増えてくる。

一般的な意味での「朋友」とこの秀才などを現す「朋友」はどのように区別されているのだろうか。秀才などを現す「朋友」を表す場合、前に限定する言葉をつけて表現している。これによって区別していると考えられる。

- 王家小厮走来说：“同学朋友候着作文会。”二位作别去了。（《儒》第六回，85頁。）

このように何らかの限定をつけて用いている。その他は以下の通り。

学里朋友（十五回，198頁） | 做时文的朋友（十七回，221頁） | 读书的朋友（三十三回，415頁）  
 | 多少考起来的来的朋友（三十六回，452頁） | 习《春秋》的朋友（三十七回，462頁） | 通学朋友（四十八回，589頁） | 学中朋友（四十九回，598頁） | 在学的朋友（四十九回，597頁） | 学校中的朋友（五十五回，672頁） |

以上のような限定される形で用いている。他に何も修飾されてないが、秀才たちを表すものがある。それは明らかに科挙の事を語った部分であるので省略したものと思われる。

また科挙の学校試に合格した人間が範囲に含まれるので知らない人間も「朋友」と呼ぶ事ができる。

- 那人去了，我问虞老师：‘这事怎的不肯认？难道他还是不该来谢的？’虞老师道：“读书人全要养其廉耻，他无奈何来谢我。我若再从这话，无容身之地了。”小弟却认不的这位朋友，彼时问他，虞老师也不肯说。先生，你说这一件事奇事可是难得？”（《儒》第三十七回，463頁。）

杜少卿と武書の会話。その中で武書が科挙試験の最中に起こった奇事を語る場面。ここでは面識の無い知らない人間だが、試験を受ける仲間という事で「朋友」と呼んでいる。

## （2）幕僚、江湖の関係

『儿女英雄伝』の抜粋をし、まず印象的だったのは「朋友」よりもむしろ「……友」で抜き出した「亲友」の方が目に付いたということである。「朋友」の周辺にある言葉は次章で考察する予定なのでここでは深く触れないが興味深い表現だ。

- 淮安府见面先谈了几句官话，便问：“吾兄，你请定了幕中的朋友了没有？”安老爷说：“卑职到此不久，人地生疏，正要合大人讨人呢。”（《儿女英雄伝》（以下《儿》）第二回，23頁）
- 特徴的なものとして「幕中の朋友」が挙げられる。これは文脈から見る限り幕僚という意味に近いと思う。訳文は顧問としている。このほかに「幕友」という言い方が多く登場しており、おそらくこれを短縮したものではないかと思われる。

- 却说纪太傅好容易给他请着一位先生，就另收拾了一处书房，送他上学。不上一月，那先生早已辞馆而去。落后一连换了十位先生，倒被他打跑了九个，那一个还是跑的快，才没挨打。因此上前三门外那些找馆的朋友听说他家相请，便都望影而逃。（《儿》第十八回，249頁）

十三妹（何玉鳳）の仇、紀献唐の生い立ちを語る場面。家庭教師の先生を「找馆的朋友」と称している。この人間たちは食客と考えていいだろう。その点で「幕中の朋友」と共通し、仕事上の関係を表している。

- 到后来，亲友们见我家里闷坐着，便有几个镖行的朋友，请我跟他们走镖。走了两年，我自己立了定号，单身出马，整整的走了六十年。（《儿》第十五回，203頁）

鄧九公が十三妹との出会いの経緯を語る場面。用心棒家業をやっている友人として「镖行的朋友」と

いう表現を用いている。

- “我说：‘朋友，你错怪了我了！这同行彼时相救，是我们一个行规。况这事云过天空，今日既承下顾，掀过这篇子去，现成儿的酒席，咱们喝酒。你我就借着这杯酒，解开这个扣儿，作个相与，你道如何？’早有那些在坐的一同上前解和。老弟，你道我看众朋友的面上，也算忒让了他了罢！（《儿》第十五回，204页）

呼びかけとして用いている。さらに次の「看众朋友的面上」は訳文では同業者の仲間たちの手前もあって、となっている。用心棒家業の同業者の事をこういつている。

- 我就连忙扶起他来，说：“周朋友，你走不得。从来说‘胜败兵家常事’，又道是‘识时务者呼为俊杰’。今日这桩事，自此一字休提。现成的戏酒，就请你们老弟兄们在此开怀痛饮，你我作一个不打不成相遇的交情，好不好？”（《儿》第十六回，210页）

では「周朋友」と呼んでおり江湖仲間の間で使用している。

### (3) 同業者・仕事の関係

『儒林外史』には以下のような表現がある。

- 牛浦道：“怎么样叫做小司客？”道士道：“我们这里盐商人家，比如托一个朋友在司上行走，替他会官、拜客，每年几百银子辛俸，这叫做‘大司客’。若是司上有些零碎事情，打发一个家人去打听、料理，这就叫做‘小司客’了。（《儒》第二十三回，287页。）

万雪斎の生い立ちを内緒で語る場面。この文面から見る限り、「朋友」とは言っても事実上は雇う側と雇われる側の関係があると分かる。ここでの関係は誰というわけでもなく、分かっているのは仕事上の取引があるというのみである。つまり、仕事上の取引関係にある相手も「朋友」と呼ぶことができるということになる。

また、『駱駝祥子』にも同僚などの人間関係を表すものがある。

- 在一块儿走过一趟车便算朋友，他们四个人把车放在了一处。祥子们擦擦汗，就照旧说笑了。（《駱》十六，141页）

ここでは道をともにした同業者というだけで「朋友」とされる。

- 城里有许许多多的事他不明白，听朋友们在茶馆里议论更使他发糊涂，因为一人一个说法，而且都说的不到家。（《駱》八，68页）

この「朋友们」は同業者仲間という関係で用いている。これは付き合いの中でも浅い人間関係を表している。このような同業者間の人間関係と位置づける事ができる。

## 6 章末まとめ

以上の分析に基づいてこれまでの内容を総括してみる。

まず、概念の中心には「老朋友」「好朋友」や「知己（知心）朋友」などの、精神的繋がりを表す

関係が中核となっている。これらの表す関係は関わりとしてもっとも深く、そして理想的な関係として使用されている。この関係が極まったもの、特定の個人との深い関係、つまり同性愛にも似た関係を中核としている。それらの外側に異性との恋愛関係が存在している。

その外側に同世代間の関係が置かれている。こちらは現実的な関係として定義できる。

その同世代間と重複し、それらに包含される中に仕事、血縁以外の日常生活の交際相手が存在する。また同様に同世代間の関係に包含されながら、社会的地位・立場を同じくする関係は存在している。

これらの「朋友」の概念は、血縁関係と「生人（他人）」「敌人（敵）」の中間に存在している。

以上の内容を図式化してみると以下になる。

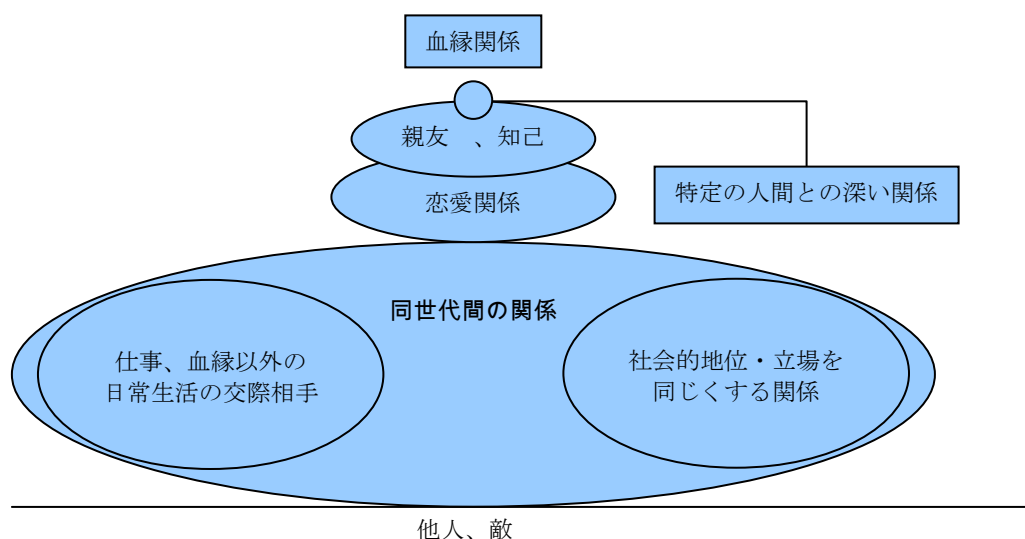


図1：「朋友」の範疇

以上のような関係を設定しているのではないのだろうか。次章は「朋友」の周辺にあることばを取り上げ、分析を行う。

## Ⅱ. 朋友の周辺語

### 1. 「自己人」

『現代汉语词典』において「自己人」は「指彼此关系密切的人；自己方面的人：」とされている。お互いの関係が非常に密接な関係で「生人」とは対立する関係にあると設定している。「自己人」は『儒林外史』に2例しかない。下記の用例のように、精神的な「朋友」関係の確認に用い、親密さを強調し、遠慮の不必要を伝える表現である。

- 倪老爹道：“长兄，我们自己人，吃个便碟罢。” 鲍文卿道：“便碟不恭。” 因叫堂官先拿卖

鸭子来吃酒，再焗肉片带饭来。堂官应下去了。（《儒》第二十五回，312页）

鮑文卿が倪老爺を酒樓に誘って飲む場面。「便碟」（簡単な料理）でかまわない、自分達の仲間なんだから見栄を張らずにいきましょうとしている。この作品にはよくあることだが二人とも貧乏だ。そういうわけで気を遣ってこのような言い方をしている。

ここから、他人と「朋友」の境界線に近い人間関係の相手を想定していると考えられる。

## 2. 「哥们儿」

《现代汉语词典》において「1. 弟兄们。2. 称同辈的朋友」とされている。

● 这里摆酒上席，依次坐了。宾主七八个人，猜拳行令，大盘大碗吃了个尽兴。席完起身，秦二倚子道：“凤四哥，你随便使一两件武艺，给众位老哥们看看。”众人一齐道：“我等求教。”（《儒》第五十二回，627页）

侠客である鳳四哥が招かれた先で、同じく武芸者たちに技を見せてくれと頼まれる場面。ここでは侠客の事を指しており、仲間意識の強い侠客たちの好む表現である。

● 四个贼可急了，就乱糟糟望着他道：“老爷子，你老也得看破着些儿。方才听你老那套交代，是位老行家。你老瞧，作贼的落到这个场中，算撒脸窝心到那头儿了！不怕分几股子的脏，挤住了，都许倒的出来；这摔了个粉碎的瓦可怎么个整法儿呢？真个的，作贼的还会变戏法儿吗？这不是人家本主儿都开了恩了，你老抬抬腿儿，我们小哥儿们就过去了，出去也念你老的好处。没别的，祝贺你老寿活八十，好不好？”（《儿》第三十二回，493页）

安家の屋敷に忍び込んできたコソ泥が許しを請う場面である。自分たちを下げた言い方で、ここでは小悪党という意味で用いている。

この二つを見る限り清代では所謂侠客、江湖の人間たちをさしていたと思われる。

次に『駱駝祥子』のものをしてみる。

● 他们得雇许多人作他们的腿，箱子得有人抬，老幼男女得有车拉；在这个时候，专卖手脚的哥儿们的手与脚就一律贵起来：“前门，东车站！”“哪儿？”“东——车——站！”“呕，干脆就给一块四毛钱！不用驳回，兵荒马乱的！”（《骆》二，13页）

戦争が起こった場合、物を運び出せる車引きの重要性が上がることを語っている。「专卖手脚的哥儿们」と限定した場合、前の「老幼男女得有车拉」から考えて、ここでは車引きの事を表している。

● 他甚至想起马上去娶亲，这样必定能够断了虎妞的念头。可是凭着拉车怎能养家呢？他晓得大杂院中的苦哥儿们，男的拉车，女的缝穷，孩子们捡煤核，夏天在土堆上拾西瓜皮啃，冬天全去赶粥厂。祥子不能受这个。（《骆》七，59页）

祥子が将来を考える場面の描写である。「大杂院中的苦哥儿们」を読んで分かる通り、主に下層の労働者たちを指しており、長屋の貧乏人たちを男女を含めて、「苦」を共にする者という仲間意識で「哥儿们」と呼んでいる。

- “没有！咱哥们儿，久吃宅门的，手儿粘赘还行吗？干得着，干；干不着，不干；不能拿人家东西！就是这个事呀？”“你看明白了？”（《骆》十三，108页）

住み込みで働いていた先で事件に巻き込まれ、祥子が同業者の程を頼る場面である。「咱（们）哥们儿」のような自分を含めた主語として用い、関係を接近させる役割があると考えられる。

- 另一个小伙子说。“岁数了，不是说着玩的。”高个子微笑着，摇了摇头：“也还不都在乎岁数，哥们儿！我告诉你一句真的，干咱们这行儿的，别成家，真的！”（《骆》十六，141页）

祥子と車引仲間との会話である。注意喚起の呼びかけとして用いている。「哥们儿」と呼びかけることでお互いの関係における距離を縮め、忠告をいう前置きをしている。

- 于晶用下颌点着那两个远去的姑娘问：“过去你也常常带姑娘和你那帮哥们儿玩？”（《浮》108页）

于晶と恋人である石岬との会話である。以上の用法とは違い、車引き、貧乏人など特定の仲間を意識しない用法で、「朋友」とほぼ同じ意味で用いている。「哥们儿」の拡張用法と言える。また「朋友」にはない卑俗は表現で、悪い仲間という意味でここでは使用している。

これらを見る限り、一般的にあまり柄のよくない仲間を指してこういつているように思える。『駱駝祥子』の用法を見ているとそこには少し自分を下げていう卑称のようなニュアンスも含まれていると考えられる。

清代では侠客間の関係を示していたところから、それ以降、肉体労働の仲間という意味と、侠客から派生して悪友という意味で使われるようになったと考えられる。

「朋友」と「哥们儿」とは同義語の関係にある。違いは「哥们儿」には「朋友」にはない仲間意識の強さ、卑俗性・庶民性があることである。「咱哥们儿(俺たちは)」という表現は、「咱朋友们」とは言い換えられないのである。

### 3. 「同＋名詞」

「同＋名詞」（名詞は漢字1字）は、「……を同じくする（者）」の意味で、日本語でも「同胞、同輩、同門」などの同様の構造、意味を持つ語が使われている。

「同」のつくものは範囲が具体的なものが主である。「同学」（学校）、「同乡」（郷里）、「同事」（仕事）、「同行」（業種）などは、何らかの共通点を根拠に友好・協調意識を強調する語である。根拠となる共通点は、組織、業種、出身地であり、人間関係の中で何を重んじるべきかについて伝統的な価値観を示している。

「同志」は、字面上は理想を同じくする者の意味だが、実際には同一の政党に属する者を指し、国民党、共産党の黨員どうしの間で使われた語であるが、今日では公的な場で儀礼的に人を指す語となった（「男同志」は男の人、「女同志」は女の人の意味）。ただし、政治的意味合いにおいては、「同志」は原義を保留しており、政治的に同じ立場の人間を指す。この場合、「朋友」は同調者の意味で

使われる。

「同好」は趣味を同じくするものどうしを指し、精神的なものを根拠とする仲間である。

- 可笑，居然落了个革命的导师的称号！可笑，所以也就不大在意，虽然学生和同事的都告诉他小心一些。（《骆》十二，106页）

「同事」を用いている。曹先生の同僚と言う意味で用いている。同じ機関に属するものという範囲である。

- 我很难过，我和关义从小学到中学一直是同学，又一同参加了海军。（《空》十五，67页）

「同学」。これも同じ学校の生徒という範囲がはっきりしている。

- 急于宣传革命的机关，不能极谨慎的选择战士，愿意投来的都是同志。但是，受津贴的人多少得有些成绩，不管用什么手段作出的成绩；机关里要的是报告。阮明不能只拿钱不作些事。（《骆》二十四，221页）

「同志」は共産党の人たちを指している。この頃は厳密にその意味で限定されている。

- 不要因为一个人的缘故，对所有同志、朋友都疏远了，不信任了。（《空》十八，81页）

「同志、朋友」と並列されている。ここでの「同志」は政治上の同じ立場のもの（同僚など）、「朋友」は同世代の交際相手を指していると考えられる。

#### 4. 「朋友」の省略形

「朋友」およびその周辺語を分析する中で「…友」の表現を見かけることが多かった。これはただ「……（的）朋友」という形のことを言い易くするために省略し短縮化したものではないかと思われる。

例として「幕友」を挙げ、証明をする。

まず、「幕友」を説明していく。この語は《儿女英雄传》の中にみられる。

- 甚么叫钱谷刑名，一概委之幕友、官亲、家丁、书吏，不去过问，且图一个旗锣扇伞的豪华，酒肉牌摊的乐事。（《儿》第一回，17页）
- 我以为现在第一桩要紧事，你得请一位认真有些心胸见识的幕友去才好，这桩事却倒大难。（《儿》第四十回，734页）

説明のために上のものだけを抜粋した。これらの例を見て感じるのは前述の「幕中的朋友」に大変近く、ほぼ同じといってもいい語であることが分かる。邦訳の「幕僚」という語で考えてみても同じことが言える。「幕友」は「幕中的朋友」の省略形であることが言える。なぜこのような言い分けが存在するのかまでは証明できないが、リズムの問題ではないだろうかと考えられる。

### Ⅲ. 人間関係詞からみる「朋友」の関係様式

#### 1. 前章の結果を踏まえて

ここまで「朋友」をキーワードにしてその周辺語まで分析を試みた。

「朋友」の語の範囲の変化を時代ごとに分析してみた。確かにその時代の制度の影響で特殊な意味を加えている。『儒林外史』の時代での秀才同士を呼び合う「朋友」や同性愛的な関係を示すもの、『兒女英雄伝』では幕僚、食客という意味で用いる「朋友」、当代の王朔の小説の中にみる「(男/女)朋友」である。しかし基本となる「朋友」の意味はほとんど変化していない。

しかしながらその人間関係における「朋友」には、私達非母語話者にはすんなりと理解できないような精神的なつながりに基づく関係がそこには存在した。

以下でその点について他の関係にも触れながら考察をしてみる。

#### 2. 「朋友」の関係でなくなるとき

上下関係となった場合、「朋友」と呼ぶことはできない。「朋友」の関係でなくなる時を考えてみると魯迅の『故郷』が思い浮かぶ。中学国語の教科書にも載っており、日本人にも馴染みが深い作品である。

主人公が少年のころの友人「闰土」を思いだし、以下のように叙述している。

- 阿！闰土的心里有无穷无尽的希奇的事，都是我往常的朋友所不知道的。（《故郷》，349页）

私が今まで付き合ってきた「朋友」が知らない事を知っているとして、「闰土」をみていることから、相手に尊敬を抱く精神的な繋がりを持つ相手として考える事が出来る。

しかし数年ぶりの再会での「闰土」の第一声は、

- 他站住了，脸上现出欢喜和凄凉的神情；动着嘴唇，却没有作声。他的态度终于恭敬起来了，分明的叫道：“老爷！……”（《故郷》，353页）

「闰土」は完全に上下関係を表す呼びかけを用い、お互いの立場を明確にさせている。このような関係設定を行った場合、「朋友」の関係ではなくなる。

#### 3. 「朋友原有通财之义（誼）」

「朋友翟原有通财之义（誼）」は《古代小说俗语大词典》では「通财：共享财物，互通有无。朋友之间应有以钱财互助的情义。<sup>6)</sup>

- 四公子道：“朋友原有通财之义，何足挂齿！小弟们还恨得知此事已迟，未能早为先生洗脱，心切不安。”（《儒》第十一回，149页。）

---

6 翟建波 编著：《中国古代小说俗语大词典》，汉语大词典出版社，2002，734 页。

第九回で婁玉亭（三公子）、婁瑟亭（四公子）が揚執中を助けている。そのことに対して揚執中お礼を言われた時、婁瑟亭はこのように答えている。お礼に対して、謙遜し、気にすることはない、当然のことをしたまでという意味で使用している。

- 老爷听了这话，把脸一沉，问道：“阿哥！你在那里弄得许多银子？我平生于银钱一道，一介不苟，便是朋友有通财之谊，也须谊可通财的才可作将伯之呼；你若借了这事，向亲友各家不问交谊一概的沿门托鉢摇尾乞怜起来，就大不是我的意思了！”（《儿》第十二回、155頁）

安驥（公子）と安学海（老爷）との会話。「金を融通し合うような仲の知り合いがいなくてもない」とされている。「朋友」という「交谊」がある上で融通し合うもので、「交谊」無しは「托鉢」であるという考えを示している。

ただし、同じく《古代小说俗语大词典》の中に「朋友莫交财，交财仁义绝<sup>7</sup>」という、相反する俗語も記載されている。相反する考え方が共存しているようにもみえる。

しかし私は「通財」の考えが中国社会では強いのではないかと考えている。まずは上述で引いた王朔《浮出海面》の表現にもつながるのが根拠の一つである。

- 法院还差点以窝藏罪对我起诉，幸亏一个律师朋友从中斡旋，让我具结悔过，才不予追究。（《浮》91頁）
- 我买了张站台票，一个在车站值勤的警察朋友把我送上车。（《浮》109頁）

ここでは社会的な権益という財産を融通している例として、また清代からも綿々と受け継がれている概念としてとらえる事が出来る。逆を言えば「交谊」さえあれば、「通財」は問題にならない、そのような考えが伺える。

園田（2001）が1987年に日本と中国の大学生100名を対象にした意識調査の中で、「将来あなたが要職についており、能力はないが、昔からの友人があなたのところへ来て職を求めてきた場合に、職を与えるべきでしょうか。」という質問を行ったところ、中国人は8割が「与える」と回答している<sup>8</sup>。

やはり中国には「朋友原有通财之义（谊）」の考え方が存在しているといえることができる。

私たちは「...は中国の古い友人」という表現を目にする。果たしてこの日本語が指す「友人」の関係と、中国語の「朋友」が指す関係は、果たして精神的な繋がりや交際相手として一致しているのだろうか。今後、この点において、さらに研究を進める必要があると感じている。

#### 4. 人間関係詞から見出せる関係様式図

孫維張は社会の中における人と人との関係は大きく二つの型に分類できるとしている。それは「亲缘关系（血縁関係）」と「社交关系（社交関係）」である。

「社交关系」はさらに三つに分かれていて「工作关系」「朋友关系」「一般关系」となっている。

7 翟建波 编著：《中国古代小说俗语大词典》，汉语大词典出版社，2002，735 页。

8 園田茂人『中国人の心理と行動』、日本放送出版協会、2001 年、111 ページ。

「工作关系」は組織活動の中で生じる関係のことで仕事の上下、同僚関係、学校の生徒と先生の関係などを含む。「朋友关系」とは気持ちの上でのつながりを基礎とするもので性格や嗜好、趣味などによって作られる関係をいう。「一般关系」は上の二つに属さないもの、店員と顧客の関係などの偶発的な関係を含む。道尋ね、投宿、同行の関係など臨時的に発生する関係である。また近所の関係もこれに含むがこれは「远亲不如近邻」という言葉があるとおりに「朋友关系」に発展することもある。

「亲缘关系」は血縁を基礎とし、婚姻、出産で拡大してゆく関係である。封建時代の制度はこの家族の単位を基礎とし、先に挙げた「宗法制度」を利用して統治を行った。その結果、複雑な親族の関係網が構成された。親族の人間関係詞からみると「父系」「母系」「夫系」「妻系」の系統に分けられる。さらに同年代も「亲」「堂」「从」「族」「表」に区分される。例えば同じ父母の兄弟は「亲兄弟」、同じ祖父の兄弟は「堂兄弟」、同じ曾祖父の場合は「从兄弟」、同じ高祖の場合は「族兄弟」、父の姉妹もしくは母の兄弟姉妹から生まれた兄弟は「表兄弟」という。さらに「亲缘」の部分の表が掲載されており詳細なのだがここではこの関係を焦点とはしていないので省略させていただく。

以上のような関係の考え方にこれまでの分析を加えて図にしてみると以下のようなになるだろうか。

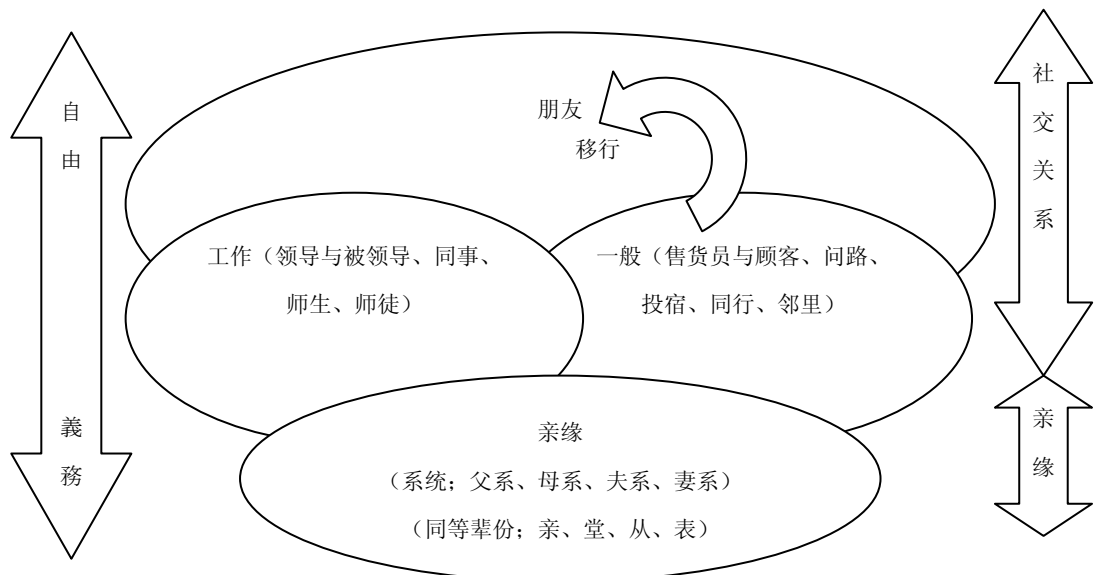


図2：関係類系図

「朋友关系」はこの中でもっとも自由意志に基づいている関係である。その反対に「亲缘关系」は先天的に決められたいわば義務的な関係である。

「工作关系」、「一般关系」はある程度は意志の介入もあるが基本的には義務的な関係である。また、仕事によっては「亲缘关系」と重なることもある。『骆驼祥子』の人和車廠は父、劉四爺と娘、虎妞によって切り盛りされているような場合である。親族であっても近所の関係であることもある。

《老张的哲学》の李応が、お婆(姑母)のところに身を寄せているなど例はたくさんある。よってこ

の位置になる。

「一般关系」は「朋友关系」に移行する可能性がある。例として『駱駝祥子』に事件の巻き添えを食って途方にくれた祥子が隣家の車夫である程を頼る場面がある。

a...…平日，祥子与他（老程）并没有什么交情，不过是见面总点头说话儿。……。

……（略）……

“我在这儿睡一夜，行吧？”他问了句，好像条野狗找到了避风的角落，……。

“你就在这儿吧，冰天雪地的上哪儿去？地上行吗？上来挤挤也行呀！”（《駱》十二，107頁）

このように快く承している。そして祥子が空き巣が入ったときその疑いをかけられないようにと証人になってもらおうとしたのに対して程はこう返している。

b “你醒明白了？我的东西就是这些，我没拿曹家一草一木？”

“没有！咱哥儿们，久吃宅门的，手儿粘赘还行吗？干得着，干；干不着，不干；不能拿人家东西！就是这个事呀？”

“你看明白了？”

老程笑了：“没错儿！我说，你不冷呀？”

“行！”（《駱》十二，108頁）

この場面で程は隣家の同業者で顔を合わせれば挨拶程度の関係であった。「一般关系」の典型的な形だろう。しかしそのような間柄の祥子が突然頼ってくると話を聞き、aではとりあえず泊まってゆく事を勧めている。さらにbの部分では不安に駆られている祥子に対して暖かい言葉をかけ、思いやりを見せている。これは「一般关系」から「朋友关系」に移行している証拠だろう。このように今まで何の関係もなかった人間に突然頼られ、しかもそれに快く応じる。これが私を含め非母語話者には不可解である。

「工作关系」と「朋友关系」は移行というよりも重なっているといえる。同僚（同級生）であると同時に友人であるというのは例を挙げるまでもない。「同学」という言葉はこの二つの枠が重なっている範疇に入るだろう。『儒林外史』の科挙仲間を指す「朋友」も同様の枠内に入れられる。

「义兄弟」は「朋友关系」の中の一部で特殊なものだろう。「朋友」の関係が非常に強まった例だといえる。

先に挙げた『駱駝祥子』の程と祥子の例はまさに典型的なものだろう。このような相互の関係、特に「朋友关系」の中国独特のものであるといえる。上で示した関係の構図は確かに存在し、それは異なる文化の間にとって奇異にも映る。時にそれは誤解を招き、甚だしきに至っては相互不信に陥ることもある。そのようなことがないように相手の文化をきちんと学びそれを理解することが、異文化付き合う上でもっとも大切なものなのではないかと私は考える。

## おわりに

規格の都合上、核心部分のみ残すために、研究理論、先行研究に関する項、また引用部分の訳等は省略した。引用例が少ないと思われる方は2006年に提出した修士論文を参照いただきたい。なお、文献表記の形式だが、中国語文献のものは中国語文献の表記形式を用いた。また、参考サイトは文書の都合上、省略した。

## <資料>

吳敬梓：《儒林外史》，上海古籍出版社，1999  
文康：《儿女英雄传》，上海古籍出版社，2001  
鲁迅：《鲁迅全集》，人民文学出版社，1973（第一卷《故乡》）  
老舍：《骆驼祥子》，人民文学出版社，1955  
老舍：《老舍文集》，人民文学出版社，1981（第四卷《离婚》）  
王朔：《王朔文集》，华艺出版社，1995（第一卷《空中小姐》《浮出海面》）  
中国社会科学院语言研究所词典编辑室：《现代汉语词典（第5版）》商务印书馆，2005  
徐宗才、应俊玲编：《常用俗语手册》，北京语言学院出版社，1985  
吳敬梓（稲田孝訳）『儒林外史』（中国古典文学大系43）、平凡社、1968 年  
文康（立間祥介訳）『儿女英雄伝』（中国古典文学大系47）、平凡社、1971 年  
老舍（立間祥介訳）『駱駝祥子』岩波書店、1980年

## <参考文献>

费孝通：《费孝通学术文化随笔》，中国青年出版社，1996  
罗常培：《语言与文化》，北京大学出版社，1950  
陈原：《社会语言学》，上海学林出版社，1983（参照したのは、商务印出版社，2000）  
孙维张：《汉语社会语言学》，贵州人民出版社，1991  
郭熙：《中国社会语言学》，南京大学出版社，1999  
中国社会科学院语言文字应用研究所社会语言学研究室编：《语言・社会・文化：首届社会语言学学术讨论会文集》，语文出版社，1991  
束定芳编：《中国语用学研究论文精选》，上海外语教育出版社，2001  
翟学伟：《中国人行动的逻辑》，社会科学文献出版社，2001  
易中天：《闲话中国人》，上海文艺出版社，2003  
易中天：《读城记》，上海文艺出版社，2003  
王仿：《中国谜语、谚语、歇后语》，浙江教育出版社，1989  
翟建波 编著：《中国古代小说俗语大词典》，汉语大词典出版社，2002  
ソシュール（小林英雄訳）『一般言語学講義』、岩波書店、1972年  
エドワード・サピア（安藤貞雄訳）『言語』、岩波書店、1998 年  
B.L.ウオーフ（池上義彦訳）『言語・思考・現実』、弘文堂、1978年（参照したのは講談社、1993年）  
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波書店、1973 年  
P.トラッドギル（土田茂訳）『言語と社会』、岩波書店、1975年  
陳原（松岡栄志、白井啓介、刈間文俊、陳立人共訳）『ことばと社会生活-社会言語学ノート-』、凱風社、1981年  
M.AK.ハリデー、R.ハッサン（寛寿雄訳）『機能文法のすすめ』大修館書店、1991年  
牛島徳次、香坂順一、藤堂秋保編『言語』（中国文化叢書1）、大修館書店、1967年  
C.オグデン、I.リチャーズ（石橋幸太郎訳）『意味の意味』新泉社、1967年（補遺1プロニスロフ・マリノフスキー『原始言語における意味の問題』）

ルース・ベネティクト（長谷川松治訳）『菊と刀』、社会思想社、1972年（参照したのは講談社、2005年）  
中根千枝『タテ社会の人間関係』、講談社、1967年  
会田雄次『アーロン収容所』、中央公論新社、1962年  
園田茂人『中国人の心理と行動』、日本放送出版協会、2001年  
宮崎市定『科举』、中央公論新社、1963年